

令和2年 1月29日

北海道知事鈴木直道様

（コンソーシアム名）

（報告者）所在地 上川郡上川町南町180番地

名称 上川町

代表者職・氏名 上川町長 佐藤芳治 □

令和元年度新エネルギー導入支援事業（設備導入支援）に係る補助事業状況報告について

令和元年 8月23日付け環エネ第768号指令により交付決定を受けた次の補助事業について、新エネルギー導入支援事業費（設備導入支援）補助金交付要綱第26条の規定により、別紙のとおり報告します。

(別 紙)

新エネルギー導入支援事業（設備導入支援） 設備等導入概要

市町村名 上川町

1 補助事業名

新エネルギー導入支援事業(設備導入支援)層雲峡観光総合コミュニティセンター及び大雪山バーデハウス「黒岳の湯」温泉熱利用設備システム(熱交換機器設備等)導入事業

2 コンソーシアム名

3 事業期間

令和元年9月20日から令和2年1月29日まで

4 事業の目的

層雲峡温泉地区唯一の日帰り専用温浴施設「黒岳の湯」において、温泉熱利用設備の老朽化に伴い、給湯温度及び暖房温度が低下しているため、給湯や暖房に灯油ボイラーを使用し、年々燃料使用量が増えてきているほか、暖房設備には電気ストーブを追加して使用している状況である。

このため本事業では、高効率な熱交換設備及び配湯管を導入し、温泉熱の熱交換効率を向上させ、温室効果ガスの排出抑制を促進する。

5 補助金の交付額 11,552,488円

6 事業の概要

高効率な熱交換設備及び配湯管を導入し、温泉熱の熱交換効率を向上させることで、施設の化石燃料使用量及び電力使用量を削減する。

また、地域の新エネルギー資源である温泉熱を活用したエネルギー地産地消の取組を加速させ、温室効果ガスの排出抑制を促進する

7 事業の実施結果及び期待される効果

熱交換設備を更新したことで、暖房効率が向上し、これまで冷気が流れていた吹抜け部分の暖房も機能した。これにより施設内の暖房温度を+6℃上昇した。燃料使用量も、前年の同月と比べ、1,4880 削減された。施設内全体が温かくなったことで、入浴客や1階レストランの利用客からの苦情等もなくなった。

源泉温度をこれまでより高温のまま維持できるようになったことで、浴槽内のお湯に硫黄の匂いが感じられるようになり、温泉の色が白濁し、より温泉らしさを感じられるようになった。

8 今後の展開

設備の更新により、源泉温度を高く維持できるようになったことで、源泉のスケール分の硬質化を防ぎ、熱交換器内や配湯管でのスケール分の詰まりを防ぐことで、分解洗浄も容易になると思われる。

現状では燃料使用量、電気使用量ともに前年同月実績を下回っており、設備更新による効果を確認することができる。今後、年間を通して稼働した場合についても大幅な削減を見込むことができる。

9 状況写真

